ヒケレバ、アハレナルコトニコソトテ、ウチナミダグミテ、事ニフレテナサケアリテゾハグ、マレケル、サル程ニ本國ニ闕所有ケル父ガ跡ヨリモ大ナル所ヲ、秋ノ毛ノ上ヘヲ給テ下ルベキニテ有リケレバ、用途馬鞍ナンド沙汰シタビテ、イカニ女ハグシテ下ルベキカト問ハル、コノ二三年ワビシキ目ミセテ候ツルニ、具テ下候テ、早ク飯クハセテコソ、心ハ慰候ハンズレト申ケレバ、イミジク思ハレタリ、ナサケノ色返々哀トテ、女房ノ出立モセヨトテ、コマ〳〵ト馬鞍用途マデ沙汰シタビケリ、有難キ賢人ニテ、萬人ノ父母ダリシ人也、

〔諸國里人談二妖異〕髪切。

元祿のはじめ、夜中に往來の人の髪を切る事あり、男女共に結たるまゝにて、元結際より切て、結たる形にて土に落てありける、切れたる人曾て覺へなく、いつきられたるといふをしらず、此事國々にありける中に、伊勢の松坂に多し、江戸にても切れたる人あり、予がしれるは紺屋町金物屋の下女夜物買に行けるが、髪を切れたる事いさゝかしらず宿に歸る、人々髪のなきよしをいふにおどろき、氣をうしなひたり、その道を求るに、人のいふに違はず、結たるまゝに落てありける、其時分の事なり、

〔半日閑話十二〕四五月〇明和五年の間、髪切りはやる、人々の髪自然と脱落す、是を髪切と云、

〔續視聽草初集十〕髪きり

くすしのとぶらひてかたらふをきけば、此ごろ東の臺にものゝけの侍りて、をうなの髪きられたり、かうやうのこと世にもおこなはれはべるといふを、さる事はをこのものゝいひのゝしるわざにて、まことにはあらじと聞すぐしはべりし、その夜また人のとぶらひて、大みきくみなどしけるに、いぬきがあらぬこそあやしけれと聞えければ、よべよりつぼねにありと聞ゆ、まろうどのまうで給ふに、かゝるわたくしのいとなみこそうしろめたけれと、刀自がいましめをもえ